

第145回 (令和8年7月) 情報処理技能検定試験(表計算) 4級問題

<問題>

- 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表を完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
- 試験時間は20分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

仕入先名	商品名	単価	仕入数
まるた	A	30,400	38
南食品	B	25,900	31
林商事	C	16,700	90
ナカノ	D	22,600	49
朝日屋	E	17,100	42
原商店	F	28,500	36
関西堂	G	15,300	84

<処理条件>

- <出力形式>のような仕入額一覧表を作成しなさい。(—— の部分は空白とする)
- 金額=単価×仕入数
値引額=金額×0.05
仕入額=金額-値引額
- 合計・平均(整数未満四捨五入の表示)を求めなさい。
- 罫線の太線と細線を区別する。(外枠は太線とする)

<出力形式>

仕 入 額 一 覧 表

仕入先名	商品名	単価	仕入数	金額	値引額	仕入額
合 計	——	——				
平 均	——	——				

第145回 (令和8年7月) 情報処理技能検定試験(表計算) 3級問題

<問題>

- 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表を完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
- 試験時間は30分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

CO	社員名	基本給	販売数	残業時間
101	鈴木 清子	258,000	67	10
102	大石 勇次	240,000	50	12
103	東 さゆり	213,000	49	13
104	加藤 正樹	261,000	61	15
105	久保田 愛	217,000	58	14
106	井上 真美	253,000	37	14
107	野口 和男	224,000	62	16
108	秋山 幸代	219,000	40	17

<判定表>

総支給額	判定
300,000 以上	**
それ以外	*

<処理条件>

- <出力形式1>のような社員別給料一覧表を作成しなさい。(——— の部分は空白とする)
- 残業手当＝基本給÷160×1.25×残業時間(整数未満切り上げ)
販売手当＝750×販売数
総支給額＝基本給＋残業手当＋販売手当
- 合計を求めなさい。
- 構成比率＝総支給額÷総支給額の合計(%の小数第1位未満四捨五入の表示)
- 判定は<判定表>を参照し、求めなさい。
- 残業手当の多い順に並べ替えなさい。
- <出力形式2>のような処理をしなさい。(平均は整数未満四捨五入の表示とする)
- 罫線の太線と細線を区別する。(外枠は太線とする)

<出力形式1>

社員別給料一覧表

CO	社員名	基本給	販売数	残業時間	残業手当	販売手当	総支給額	構成比率	判定

(途中省略)

——	合 計							——	——

<出力形式2>

残業手当の平均	
販売手当の平均	
総支給額の最小	

第 1 4 5 回 (令和 8 年 7 月) 情報処理技能検定試験(表計算) 準 2 級問題

<問 題>

- 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表およびグラフを完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
- 使用したテーブルを印刷しなさい。(表の形式は問わない)
- 試験時間は30分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

CO	顧客名	貸室番号	時間
101	KLB総業	14	6
102	久保田商店	12	7
103	アリーズ堂	13	7
104	健康友の会	14	8
105	洋服の田中	13	6
106	写真くらぶ	11	8
107	登山愛好会	11	6
108	さくら企画	12	5

<基本料金テーブル>

貸室番号	基本料金
11	35,240
12	31,350
13	27,690
14	22,970

<割引率表>

利用料金		割引率
35,000以上	⇒	5.7%
30,000以上 35,000未満	⇒	5.1%
30,000未満	⇒	4.5%

<処理条件>

- <出力形式1>のような請求額一覧表を作成しなさい。(――の部分空白とする)
- 基本料金は<基本料金テーブル>を表検索しなさい。
- 超過料金=基本料金÷5×0.37×(時間-5)(整数未満切り上げ)
利用料金=基本料金+超過料金
- 割引率は<割引率表>を参照し、求めなさい。(％の小数第1位までの表示とする)
割引額=利用料金×割引率(整数未満切り捨て)
請求額=利用料金-割引額
- 超過料金が5,100以上または請求額が33,000以上に“A”、それ以外に“B”の判定をしなさい。
- 合計を求めなさい。
- 超過料金の降順に並べ替えなさい。
- 請求額一覧表の基本料金のセル証明をしなさい。
- <出力形式2>のような処理をしなさい。すべて¥表示とする。(平均は整数未満四捨五入の表示とする)
- 罫線の太線と細線を区別する。(外枠は太線とする)
- 請求額一覧表の請求額の値を顧客名別の縦棒グラフにしなさい。
タイトルは“顧客別の請求額”とし、凡例は“請求額”とする。

<出力形式1>

請 求 額 一 覧 表

CO	顧客名	貸室番号	基本料金	時間	超過料金	利用料金	割引率	割引額	請求額	判定
(途 中 省 略)										
――	合 計	――		――			――			――

<出力形式2>

	利用料金	割引額	請求額
平 均			
最 大			
最 小			

第 1 4 5 回 (令和 8 年 7 月) 情報処理技能検定試験 (表計算) 2 級問題

<問 題>

1. 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表およびグラフを完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
2. 使用したテーブルを印刷しなさい。(表の形式は問わない)
3. 試験時間は30分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

商C O	商品名	仕入数	仕入額
11	商品J	704	892,300
12	商品K	907	1,035,700
13	商品L	531	781,200
14	商品M	718	967,400
15	商品N	842	1,285,600

※<出力形式1>で使用する。

得C O	得意先名	商C O	販売数
101	井上商会	12	480
102	S Kストア	11	353
103	大木商事	15	435
104	東洋百貨店	13	493
105	南国食品	14	324
106	まこと物産	14	368
107	山田総業	12	397
108	久保田商店	15	380
109	金山水産	11	319

※<出力形式2>で使用する。

<利益率表>

仕入数	仕入額	利益率
900以上	または 120万以上	0.26
それ以外		0.28

<値引率表>

販売額	値引率
75万以上	9.4%
62万以上 75万未満	8.5%
1以上 62万未満	7.6%

<評価表>

評価の条件	評価
販売数が 380 以上かつ請求額が 53 万以上の場合	A
販売数が 380 以上または請求額が 53 万以上の場合	B
それ以外	C

<処理条件>

1. <出力形式1>のような商品別定価計算表を作成しなさい。(—— の部分は空白とする)
2. 利益率は<利益率表>を参照し、求めなさい。(小数第2位までの表示とする)
定価=仕入額÷仕入数×(1+利益率) (整数未満切り上げ)
3. 合計を求めなさい。
4. <出力形式2>のような得意先別請求額一覧表を作成しなさい。(—— の部分は空白とする)
5. 商品名・定価は、商品別定価計算表を表検索しなさい。
6. 販売額=定価×販売数
7. 値引率は<値引率表>を参照し、求めなさい。(% の小数第1位までの表示とする)
請求額=販売額×(1-値引率) (整数未満切り捨て)
8. 評価は<評価表>を参照し、求めなさい。
9. 合計を求めなさい。
10. 販売数の降順に並べ替えなさい。
11. 罫線の太線と細線を区別する。(外枠は太線とする)
12. 得意先別請求額一覧表の定価と評価のセル証明をしなさい。
13. 得意先別請求額一覧表の請求額の値を得意先名別の縦棒グラフにしなさい。
タイトルは“得意先別の請求額”とし、凡例は“請求額”とする。

<出力形式1>

商品別定価計算表

商C O	商品名	仕入数	仕入額	利益率	定価
(途 中 省 略)					
——	合 計			——	——

<出力形式2>

得 意 先 別 請 求 額 一 覧 表

得C O	得意先名	商C O	商品名	定価	販売数	販売額	値引率	請求額	評価
(途 中 省 略)									
——	合 計	——	——	——			——		——

第 1 4 5 回 (令和 8 年 7 月) 情報処理技能検定試験 (表計算) 1 級問題

<問題>

1. 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表およびグラフを完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
2. 使用したテーブルを印刷しなさい。(表の形式は問わない)
3. データ保存またはすべての表の数式印刷をしなさい。
4. 試験時間は30分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

得CO	商CO	売上数
101F	11	614
101F	12	705
101F	13	530
101F	14	551
102G	11	450
102G	12	718
102G	13	627
102G	14	679
103E	11	476
103E	12	740
103E	13	644
103E	14	620
104G	11	576
104G	12	758
104G	13	619
104G	14	590

<得意先テーブル>

得CO	得意先名
101F	大和田総業
102G	KYストア
103E	共栄百貨店
104G	アサノ商事

<商品テーブル>

商CO	商品名	原価
11	A商品	1,436
12	B商品	1,167
13	C商品	1,349
14	D商品	1,258

<値引率テーブル>

区分	値引率
E	8.3%
F	7.4%
G	6.5%

※区分は得COの右から
1文字目とする。

<増量数の計算式>

売上数	増量数
620 以上	売上数×5.2%
それ以外	売上数×4.3%

※増量数は整数未満切り捨て。

<評価表>

売上数	請求額	評価
740 未満 かつ 1,010,000 以上		***
740 未満 かつ 910,000 以上 1,010,000 未満		**
それ以外		*

<処理条件>

1. <出力形式1>のような得意先別請求額一覧表を作成しなさい。(――の部分には空白とする)
2. 得意先名、商品名はそれぞれ<得意先テーブル>、<商品テーブル>を表検索しなさい。
3. 定価＝原価×1.28 (10 位未満四捨五入) ※原価は<商品テーブル>を参照する。
売上額＝定価×売上数
4. 値引率は<値引率テーブル>を参照し、求めなさい。(％の小数第1位までの表示とする)
値引額＝売上額×値引率 (100 位未満切り上げ)
請求額＝売上額－値引額
5. 増量数は<増量数の計算式>を参照し、求めなさい。
6. 評価は<評価表>を参照し、求めなさい。
7. 合計を求めなさい。
8. <出力形式1>と同じ形式で、得意先名が共栄百貨店以外で請求額が100万未満を抽出しなさい。
表題は“得意先別請求額一覧表 (共栄百貨店以外・請求額100万円未満)”とし、商COの昇順で請求額の降順に並べ替えなさい。
9. 得意先別請求額一覧表を基に<出力形式2>のような処理をしなさい。
10. 得意先別請求額一覧表を基に<出力形式3>のような処理をしなさい。(平均は整数未満四捨五入の表示とする)
11. 罫線の太線と細線を区別する。(外枠は太線とする)
12. <出力形式2>の請求額を商品名別の縦棒グラフにしなさい。
タイトルは“商品別の請求額”とし、凡例は“請求額”とする。

<出力形式1>

得意先別請求額一覧表

得CO	得意先名	商CO	商品名	定価	売上数	売上額	値引率	値引額	請求額	増量数	評価
(途中 省略)											
――	合 計	――	――	――			――				――

<出力形式2>

商品別集計表

商品名	売上数	請求額	増量数
A商品			
B商品			
C商品			
D商品			

<出力形式3>

売上数が590以上740未満の値引額の合計	
売上額が100万円以下で値引率が7.4%以外の件数	
値引額が70,000円以上で増量数が25以上の請求額の平均	

第145回（令和8年7月）
情報処理技能検定試験（表計算）
初段 問題

試験時間	30分
------	-----

1. <入力データ>を基に、<処理条件>に従って表およびグラフを完成しなさい。
2. 表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
3. <出力形式>に「合計」「平均」などがある場合は、関数により処理を行うこと。ただし「——」部分は空白とする。
4. 表には罫線を引くこと。（罫線の太線と細線は区別する。外枠は太線とする。）
5. 使用したテーブルの表の形式は問わない。
6. [] 内文字はシート名とする。テーブルや作成する表にシート名があるものは、それぞれこのシート名でシートを作成し、処理を行うこと。
(例 <出力形式1> [前期]・[中期]・[後期] →前期、中期、後期の各シートを作成し、それぞれ指示された表を作成する。)
7. 作成したデータは事前に準備したファイル（初段・受験番号・名前）に上書き保存する。
(例：初段101日検太郎)

問 題

<入力データ>（各24件）※テキストデータはSPS フォルダ内内のデータを使用する。

〔10月前半〕

商C O	得C O	販売数
11	101	89
11	102	182
11	103	152
11	104	122
12	101	132

： ： ：

15	104	72
16	101	92
16	102	100
16	103	170
16	104	210

〔10月後半〕

商C O	得C O	販売数
11	101	170
11	102	82
11	103	149
11	104	121
12	101	210

： ： ：

15	104	76
16	101	75
16	102	95
16	103	176
16	104	205

<商品テーブル>〔テーブル〕

商C O	商品名	原価
11	商品P	1,718
12	商品Q	2,336
13	商品R	1,902
14	商品X	2,245
15	商品Y	1,823
16	商品Z	2,067

<得意先テーブル>〔テーブル〕

得C O	得意先名	9月販売数	9月販売額
101	大京百貨店	1,343	3,426,527
102	S Bストア	1,671	4,370,368
103	小山田総業	1,622	3,989,143
104	マコト商事	1,621	4,018,659

<見込利益率表>〔テーブル〕

販売数	見込利益率
160 以上	27%
100 以上 160 未満	28%
1 以上 100 未満	29%

<値引率表>〔テーブル〕

販売額	販売数				
	1～79	80～99	100～139	140～179	180～
1 以上 20 万未満	5.9%	5.7%	5.5%	5.3%	5.1%
20 万以上 30 万未満	6.6%	6.4%	6.2%	6.0%	5.8%
30 万以上 40 万未満	7.3%	7.1%	6.9%	6.7%	6.5%
40 万以上	8.0%	7.8%	7.6%	7.4%	7.2%

<処理条件>

1. <入力データ>（テキストデータ、日本語シフトJ I S、C S V形式）、<商品テーブル>、<得意先テーブル>、<見込利益率表>、<値引率表>を使用し、<出力形式1>のような表をそれぞれのシートに作成。

<出力形式1>〔10月前半〕・〔10月後半〕

商C O	商品名	得C O	得意先名	販売数	定価	販売額	値引額
(途 中 省 略)							
—	合 計	—	—		—		

- 1) 商品名、得意先名はそれぞれ<商品テーブル>、<得意先テーブル>を表検索。
- 2) 定価＝原価×(1＋見込利益率)（10 位未満切り捨て）
- 3) 販売額＝定価×販売数
- 4) 値引額＝販売額×値引率（整数未満切り上げ）

2. <出力形式1>を基に、<出力形式2>のような表を作成。

<出力形式2>〔計算表〕

商品別総括表

商品名	販売数	販売額	値引額
(途 中 省 略)			
合 計			

- 1) 販売数、販売額、値引額は、10月前半シートの各項目の集計＋10月後半シートの各項目の集計。
- 2) 販売数の降順に並べ替え。

3. <出力形式1>、<得意先テーブル>を基に、<出力形式3>のような表を作成。

<出力形式3> [計算表]

得意先別請求額計算表														
得CO	得意先名	10月前半			10月後半			10月合計			請求額	達成指数	前月比率	評価
		販売数	販売額	値引額	販売数	販売額	値引額	販売数	販売額	値引額				
(途中省略)														
—	合 計											—	—	—

- 1) 得意先名は<得意先テーブル>を表検索。
- 2) 10月前半・10月後半の各販売数・販売額・値引額は、基表の同項目の値を集計。
- 3) 10月合計の販売数・販売額・値引額は、10月前半の各項目＋10月後半の各項目。
- 4) 請求額＝10月合計の販売額－10月合計の値引額
- 5) 達成指数＝ $\frac{10月合計の販売数}{9月販売数} \times 100$ （整数未満切り上げ）
- 6) 前月比率＝ $\frac{10月合計の販売額}{9月販売額}$ （%の小数第1位未満切り捨て）
- 7) 10月合計の販売額が420万以上または前月比率が110.0%以上の場合、“順調”の評価をする。

4. <出力形式1> [10月後半] を基に、<出力形式4>のような表を作成。

<出力形式4> [計算表]

得COが102以外で販売数が100超の値引額の合計	
販売額が最大の得意先名	

- 1) 上記表の条件に合う値を、基表から集計。
5. <出力形式3>を基にグラフを[計算表]シートに作成。
- 1) グラフの種類は、得意先名別の10月合計の販売数を折れ線、請求額を縦棒にした複合グラフ。
- 2) グラフタイトル、凡例は以下のとおりにする。

